

小木の子 われら

校区内
全戸回覧

令和2年5月22日発行

乗り越える 切り拓く

校長 齋藤光夫

今年の5月上旬はさわやかな晴れの日が続きました。例年の大型連休中であれば、時に行楽地に出かけ、時に花咲き誇る山を歩き、道で観光バスとすれ違うたびに（ようこそ佐渡へ。天気にも恵まれましたね。）と心豊かに過ごせたのですが…。

至る所で「ステイホーム」の言葉が飛び交い、全国各地で人の波は消え、必死に「自粛」に努めながらも日ごとに多くなるやり切れない声、そして、医療従事者への感謝とエール。

未曾有の苦境の中、それでも人は何とかして力を合わせ、苦難を乗り越えようとしています。そして、これまでにない新しい視点、関わり方が次々と生み出されています。

テレワークという働き方、離れた人同士が複数で関わり合うリモート会話、テイクアウトやデリバリーなど営業に工夫を凝らす姿などが広がりました。数百枚の手作りマスクを医療機関に寄贈する中学生が話題になりました。多くの人が作り始めた自作マスクにおしゃれの視点が加わりました。部屋の整理、庭の手入れ、DIYで物作りと、ステイホームが生んだ（せざるを得なかった）動きが次々と見られるようになりました。

一方で、やむを得ない状況に耐えきれず、ストレスを理由に自粛要請に応じない姿、他県ナンバー車への悪質行為や感染者・関係者への差別を伝える報道も後を絶ちません。

11日から学校が再開されました。とはいえ、感染拡大防止策の継続は必要であり、学校においても「新しい生活様式」に配慮した教育活動の工夫が求められています。

ところで、今年度より完全実施となった小学校学習指導要領（平成29年告示）には次のような記述があります。

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

今、社会全体が想像を超える苦境に追い込まれています。行動を制限され、新しい生活様式が求められる中、何ができるか、どう生きるかを考え、力強く乗り越え、新たな道を切り拓く力が大切なのだと改めて感じています。